

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	古川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築の歴史を学ぶという事は、先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認であり、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えである。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせること。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、教科書の他スライドや配布プリントを使用。テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 日本建築史	ガイダンス・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		1:竪穴式住居と高床式建物(三内丸山遺跡)／2:古代の神社建築(伊勢神宮/出雲大社)
第3回		3:仏教建築の伝来(法隆寺金堂)／4:古代の都市計画と住宅(平安京、平城京)
第4回		5:浄土教の建築(平等院鳳凰堂)／6:中世の仏教建築(浄土寺浄土堂)
第5回	2. 日本近代建築史	7:中世の神社建築(厳島)／8:中世の住宅から書院造へ
第6回		9:城郭建築(姫路城)／10:茶室と数寄屋(桂離宮)
第7回		11:近世の寺社建築(善光寺、日光東照宮、栄螺堂)／12:民家
第8回		1:西洋文化の移入(グラバー邸/富岡製糸場)／2:日本人建築家の誕生(東京駅/日本銀行)
第9回	3. 西洋建築史	3:洋式建築の展開と新しい様式の模索／4:都市計画および構造技術の発達
第10回		5:モダニズム建築の到来／6:戦後復興から高度成長期にかけて(広島平和記念館)
第11回		7:戦後の住宅政策とDK住宅の誕生／8:日本建築界からの発信
第12回		9:モダニズムの先を求めて(つくばセンタービル/京都駅ビル/せんだいメディアテーク)
第13回	4. 西洋近代建築史	1:エジプト建築(ギザのピラミッド)／2:オリエント建築
第14回		3:ギリシア建築(パルテノン神殿)／4:ローマ建築(パンテオン、コロッセウム)
第15回		5:初期キリスト教建築／6:ビザンティン建築
第16回		7:イスラム建築／8:ロマネスク建築
第17回		9:ゴシック建築／10:中世の世俗建築
第18回		11:ルネサンス建築／12:バロック建築／13:リヴァイヴァル建築
第19回		1:新材料を用いた構築物(1851ロンドン万博/1889パリ万博)／2:都市問題・住宅問題
第20回		3:アーツ・アンド・クラフツ運動(マッキントッシュ)
第21回		4:アール・ヌーヴォー(オルタ、ギマール、ガウディ、モンタネル)
第22回		5:アメリカ建築の近代化(シカゴ高層建築)／6:セセッション(ヴァーグナー)
第23回		7:鉄筋コンクリート造建築の登場／8:ドイツ工作連盟(AEGタービン工場)
第24回		9:近代建築運動(シュレーダー邸)
第25回		10:モダニズム建築の完成と流布(グロピウス、ミース、コルビュジェ、ライト)
第26回		11:アール・デコとスカイスクレイパー(クライスラー/エンパイアステートビル)
第27回		12:第二次世界大戦後の建築(シドニー・オペラハウス)
第28回		13:ポストモダニズム建築(ポンピドー・センター/香港上海銀行)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	初めて建築計画を学ぶものにとって、最も身近な生活の器である住宅について、その計画の方法を理解し、快適な住空間を創造する計画技術を学ぶ。また近年の高齢者社会における、住環境整備の需要の高まりを考慮し、ユニバーサルデザインを目指した住戸計画や居住システムについても、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	1.住宅計画とは何か	①住宅計画の歩み ②歴史の中の住宅建築
第3回 第4回	2.住空間の構成原理	①居室の結合タイプ ②住宅平面の考え方 :ゾーンプランニング :動線によるプランニング
第5回 第6回 第7回 第8回 第9回	3.インテリア空間	①インテリア空間と人間工学 :人体とスケール :人体寸法から動作空間 :動作空間から単位空間
第10回 第11回 第12回	4.寸法のシステム	①寸法の単位とヒューマンスケール ②寸法のシステム :モジュール :日本の木割り
第13回 第14回	5.ハンディキャップ者配慮の住宅計画	①バリアフリーからユニバーサルデザインへ ②ノーマライゼーションの考え方 ③人生80年時代 ④変化する高齢者の住空間:自立を支える居住システム
第15回 第16回 第17回	●作品研究	①高齢者対応の住宅:安全性・バリアフリーの基本問題と解説 ■7月下旬、前期期末試験実施
第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回 第25回 第26回	6.建築の基本的な構成の手法について	①建築の構成の基本要素:建築の各部位がどのようにとらえられてきたか。 :建築を成立させる基本的アイテム :比例(プロポーション)など :スケールの問題など
第27回 第28回 第29回 第30回 第31回	7.地域共生と環境共生	②建築の基本的空間言語について ①地域共生と住宅 ②環境共生と住宅
第32回 第33回 第34回	8.集合住宅の住戸形式	
第35回 第36回 第37回 第38回	9.コミュニティ施設と社会福祉施設	①コミュニティ施設 ②高齢者施設
第39回 第40回	10.都市計画	住区と用語
第41回 第42回 第43回 第44回	11.各部計画	 ■12月中旬、後期期末試験実施

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造 I	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋コンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類①
第3回		構法の変遷、構造の分類②
第4回	木質構法	木質構法の種類
第5回		木材(建築用木材)①
第6回		木材(建築用木材)②
第7回		木材(木質材料)
第8回		基礎、地盤調査、地業
第9回		軸組工法①
第10回		軸組工法②
第11回		軸組工法③
第12回		軸組工法④
第13回		軸組工法⑤
第14回		軸組工法⑥
第15回		軸組工法⑦
第16回		軸組工法⑧
第17回		その他構法
第18回		枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造	構造形式と構造の原理
第20回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)①
第21回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)②
第22回		コンクリート(調合)①
第23回		コンクリート(調合)②
第24回		鉄筋(種類と強度)①
第25回		鉄筋(種類と強度)②
第26回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)①
第27回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)②
第28回		ラーメン構造①
第29回		ラーメン構造②
第30回		ラーメン構造③
第31回		ラーメン構造④
第32回		ラーメン構造⑤
第33回		ラーメン構造⑥
第34回		その他RC構造

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅰ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみを持ち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	法令集のつくり方(インデックスの貼り方、アンダーラインの引き方)
第2回		
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回	採光	採光有効面積
第21回		
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回		
第26回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第27回		
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回		
第32回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第33回		
第34回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ（木造）	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位（136時間）	開講・履修期	2026年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇（建築設計事務所、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、各種構造の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドや資料などの教材を利用した講義形式の授業も行う。作業は基本的には個人で行うが、軸組模型についてはグループワークによるものである。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目橋・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回	2. 木造製図	図面の名称・内容・図面の読み方・図面を描く上での注意点
第3回		案内図・求積図・一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第4回		配置図講義
第5回～		配置図作図演習①
第6回		配置図作図演習②
第7回		平面図講義
第10回～		1階平面図作図演習①
第11回		1階平面図作図演習②
第12回～		2階平面図作図演習①
第13回		2階平面図作図演習②
第14回		平面詳細図講義
第17回～		1階平面図作図演習①
第18回		1階平面図作図演習②
第19回～		2階平面図作図演習①
第20回		2階平面図作図演習②
第21回		軸組模型講義
第24回～		軸組模型製作演習①
第30回		軸組模型製作演習②
第38回		立面図講義
第39回～		立面図作図演習①
第40回		立面図作図演習②
第41回		断面図講義
第43回～		断面図作図演習①
第44回		断面図作図演習②
第45回		矩計図講義
第47回～		矩計図作図演習①
第48回		矩計図作図演習②
第49回		基礎伏図講義
第50回～		基礎伏図作図演習①
第51回		基礎伏図作図演習②
第52回		1階床伏図講義
第54回～		1階床伏図作図演習①
第55回		1階床伏図作図演習②
第56回		2階床伏図講義
第58回～		2階床伏図作図演習①
第59回		2階床伏図作図演習②
第60回		2階小屋伏図講義
第62回～		2階小屋伏図作図演習①
第63回		2階小屋伏図作図演習②
第65回		展開図講義
第67回～		展開図作図演習①
第68回		展開図作図演習②

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習 I	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	7単位(238時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「建築設計 I」では、基礎を確立し設計の原点である、“自分で考え” “物を造り出す” 方法を身に付けることを目的とする。具体的には、線の引き方から透視図の原理、模型の製作方法、図面の読み方・描き方、そしてゼロから現実の敷地に自分のコンセプトを基に建築物として完成させ、プレゼンテーションまでが出来ることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 ～第17回	1.【住宅模写】	①図面の概念の学習：配置図兼平面図の模写 ②図面の表現の仕方の学習：線の使い分けを学ぶ ■模写図面提出
第18回 第19回 ～第33回	2.【増築案】の作成	①エスキースの学習：フリーハンドによる作業の練習 ：建築計画 I で学ぶゾーニング、動線プランニング等の応用 ②配置図兼平面図の作成：製図用具を使用した手書きの図面の作成 ③模型制作による空間の学習：スチレンペーパーによる模型制作により空間を把握する ■作成図面及び模型提出
第34回 ～第49回	3.【木造戸建住宅】 民家園に隣接する校外型住宅(仮)	①類似例の収集と分析。方針の模索 ②エスキースから図面作成、模型制作、プレゼンテーションまでの一連の過程を学習する ③エスキース及びエスキース模型による図面チェック (夏休み期間の初期(7月下旬～8月上旬の昼間)に行う場合有) ④SketchUpによるプレゼンテーション用図面作成 ⑤プレゼンテーション ■CAD出力図・内外パース・データ及び模型提出
第50回 ～第66回		⑥現地調査一計画地と周辺地域(レポート)
第66回 ～第82回	4.【RC造店舗併用住宅】 都市型住宅+店舗(仮)	①類似例の収集と分析。方針の模索 ②テーマの決定(設計条件の決定)
第83回 ～第99回		③エスキース作業とエスキース模型による検討 ④構造形式の検討・チェック
第100回 ～第102回		⑤コンピューターCAD(ベクターワークス・SketchUp)によるプレゼンテーション用図面作成 基本図+内外パース
第104回 ～第119回		⑥完成模型の制作 ⑦プレゼンテーション ■CAD出力図シート・データ及び模型提出

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅰ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次(建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	CADの概念を理解し、正しい表現としての適切な作図が行える力を習得する事を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、Vectorworksをベースに、環境設定から面と線、幾何学図形の作図を通し、基本操作を習得。またレイヤークラス分けなどの管理を理解し、適切に運用していく方法を学ぶ。また、CADの操作に留まらず、図面の作図、図面の意図を理解することに重点を置き、第一段階では1/100レベルの意匠図、第二段階では各種構造の構成も踏まえた理解、1/50レベルの一部詳細を含んだ表現へと段階的に習得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～	目標と準備 基本設定	CADの概念と実務活用、Vectorworksインストール準備 線を描く:ツール操作、クラス設定と線種、設定等 環境設定:ツール配置、作業画面登録
第5回～ 第7回～ 第11回～	作図練習 家具シンボル作成 配置兼1階平面図	幾何学図形を描く:幾何学図形の作成、加工(切り欠き、張り合わせ)、前後関係 曲線と多角形:円弧、ペジェ曲線、多角形、線分化 作図ベース定義:縮尺、用紙設定、レイヤー設定 通り芯の作図:通り芯、オフセット 壁の作図:ダブルライン多角形、切り欠き 寸法記載:設定、位置の検討 建具の作図:建具の種類、簡易的な窓や開口部の描画 階段:階段の種類と描画、計算方法 建築概要:面積の算定、記号、文字記載
第17回～	2階平面図	図面の管理:レイヤー登録画面設定 作図手順、作図実習
第21回～	立面図の作図	立面図とは:高さの表記、屋根の種類、屋根勾配 作図方法:図面の回転、窓の表現
第25回～	断面図の作図	断面図:断面図とは、切断位置、切断表現 懐寸法:スラブ、屋根、基礎 階段の段数決定の基礎、表現
第29回～ 第31回～	図面着色 シートレイヤー	Vectorworksを使用した図面の影付け、テクスチャー表現を学ぶ シートレイヤーの仕組み、設定
第33回～ 第39回～	RC造の1/100図面表現 RC造の1/50図面表現	RC造の基礎:ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握、基礎ピット、屋上の構成 RC造の応用:仕上げ方法による壁構成の違い、LGSの構成、1/50レベルの図面表現
第43回～ 第45回～	木造1/50壁の構成 展開図作図の基礎	木造の応用:木造の壁構成 展開図作図:展開図の作図手順、巾木、廻り縁
第47回～ 第51回～	家具図の表現 S造の1/100図面表現	家具図の基礎:三面図の基本構成と材料、引き出しの構成 S造の基礎:ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握
第57回～ 第60回～68回	S造の1/50壁の構成 図面表現の再確認	S造の応用:仕上げ方法による壁構成の違い 図面における表現の再確認

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアコーディネーション	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋弘次(一級建築士であり、建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネーション業務に従事した経験を活かし授業を行う)				
授業の到達目標	一年を通し、インテリアコーディネーションに関わる実務的な知識と手法を習得する事を目的とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、インテリアコーディネーターの仕事内容、イメージやスタイルなどの専門用語の意味を理解する事に始まり、ワンルームコーディネーションを通し、基本となる仕上げ素材や家具の知識を得る。次に、空間を把握した立体的なコーディネーションのための色バランス、高さ活用を学ぶ。後期では、金具や配線図などの詳細なコーディネーションを含むマンションリノベーション課題を通し、パースやプレゼンテーション手法を取得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第5回～ 第9回～ 第11回～ 第13回～ 第19回～ 第21回～ 第23回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第41回～	第1課題 マンションワンルームIC	[インテリアコーディネーションとは]：インテリアとは、コーディネーターの仕事 [スタイルとイメージ]：言葉とイメージ、インテリアの構成要素 [住空間①「私室」]：くつろぐ、楽しむ、寝る、作業する 第1課題概要説明 [家具①]：家具の種類、名作椅子 [素材①床]：タイル、フローリング、カーペット、畳、ビニル床、石、ラグ [寸法]：寸法感覚をつかむ、基本寸法 [家具②]机、食卓、デスク、シェルフ 課題作成時間 第1課題提出
第21回～ 第23回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第41回～	第2課題 木造住宅リノベーション	第2課題概要説明、クライアントインタビュー実施 [住空間②「リビング・ダイニング・キッチン」]：くつろぐ、楽しむ、話す、作る、食べる [材料②壁・天井]：漆喰、珪藻土、塗装、木、クロス(織布、紙、和紙、ビニル)金属等 [ウインドウトリートメント]：窓のタイプ、ウインドウトリートメントの種類 [色]色の構成、バランス [光①]：照明器具の種類、太陽光の活用 コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法1 課題作成 第2課題提出・プレゼンテーション
第43回 第45回 第47回 第49回 第51回 第53回 第55回 第57回 第59回 第61回 第63回 第65回 ～第68回	第3課題 マンションフルリノベーション A：範囲の広い総合的な課題 B：小規模だが密度ある課題 より選択	第3課題概要説明、クライアントインタビュー実施 [住空間③「サニタリー空間」]：洗う、捨てる、脱ぐ、きれいにする [給排水設備]：水栓金具、洗面器等 [材料③透明材]：ガラス、アクリル、ポリカーボネード、ガラスブロック [高さ]：高階高住宅、プロポーション、空間の空き、段差の活用 [建具]：扉の種類、金具、材質 [光②]：照明プランニング、配線図 配線図実習 コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法2 課題作成 課題作成 第3課題提出・プレゼンテーション

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーション	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位（68時間）	開講・履修期	2026年度：1年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（インテリアデザイン事務所、不動産会社にて、商業施設の開発、店舗の設計管理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」を主としたデジタルツールの操作習得を通し、自身が計画した提案を、他者へとの的確に伝えるプレゼンテーション能力を身に着けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得、効果的な提案資料作成の基盤を作る。また、設計課題とも連動し、より実践的な提案資料の作成、プレゼンテーションについても学ぶ。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1・2回	1. パソコンを使用する準備	・アプリケーション（illustrator、photoshop）のインストール
第3・4回 第5・6回	2. プレゼンテーションの基礎	・提案与件の整理について ・ビジュアルプレゼンテーションについて
第7・8回 第9・10回 第11・12回	3. Photoshopの基礎	・ラスターデータとベクターデータ ・ピクセル・解像度について ・レイヤー・マスクについて ・画像の切り抜き
第13・14回 第15・16回	4. Photoshopの応用（1）	・背景、添景の合成 ・人の合成 ・写真補正（レベル補正 アンシャープ機能 陰影付けと修正）
第17・18回	5. Photoshopの応用（2）	・CG用テクスチャーの作成 ・手描き風写真加工
第19・20回 第21・22回 第23・24回	6. illustratorの基礎	・[線]：ペンツール、ペジェ曲線、アンカーポイント、パス、ブラシ ・[面]：面作成、レイヤー前後関係、加工、パスファインダー ・[カラー]：カラー設定、スウォッチ登録、グラデーション ・トレースチャレンジ・ライブペイント ・[文字]：文字設定、段落設定、文字のレイアウト、フリーフォントの活用 ・[画像配置]：解像度おさらい、画像のリンク、埋め込み、ライブトレース、ラスタライズ
第25・26回 第27・28回	7. illustratorの応用（1）	・レイアウトのルール、手順・フォントの選定 ・学生名刺の作成
第29・30回	8. illustratorの応用（2）	・VectorからIllustrator、図面の着色、ドロップシャドウ
第31・32回 第33・34回	9. プレゼンテーションの実践	・Powerpointの基本 ・プレゼン資料（スライド）の考え方 ・設計演習課題との連動（スライド、ビジュアルデータの作成）

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	パース演習	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位（68時間）	開講・履修期	2026年度：1年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也（パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース（透視図）の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着彩までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	1、フリーハンドによるスケッチ	①図法による作図を行う前に、フリーハンドで簡単な立体を描かせることにより、デッサン力を養う。
第4～7回	2、建物スケッチ	①江戸東京たてもの園などに行き、明治・大正・昭和の建物群を見学し、その中の1つの建物をスケッチする。
第8～19回	3、1点透視図・グリッド法による作図	①1点透視図・グリッド法で簡単な立体から室内パースの作図及び着彩を行う。
第20～34回	5、設計課題の着彩パースを描く	①設計演習Ⅰと連動し、自分がデザインした商業施設の着彩パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着彩など一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	3D・CG	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度：1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	米田広司(設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	3DソフトSketchUPのモデリング・レンダリング・ムービーの能力を学習する。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使うことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、理解が出来たかを確認するため、小テストを実施して各自のスキルを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2・3回	2. SketchUp・基礎概論 基本操作	SketchUpの基本環境設定と操作の基本 SketchUpの基本操作の練習1
第4・5回		SketchUpの基本操作の練習2
第6・7回		SketchUpの基本操作の練習3
第8・9回	3. SketchUp モデリング1	SketchUpによる住宅のモデリング基本1
第10・11回		SketchUpによる住宅のモデリング基本2
第12・13回		SketchUpによる住宅のモデリング基本3
第14・15回	4. SketchUp モデリング2	SketchUpによる店舗のモデリング基本1
第16・17回		SketchUpによる店舗のモデリング基本2
第18・19回		SketchUpによる店舗のモデリング基本3
第20・21回		SketchUpによる店舗のモデリング総合テスト
第22・23回	5. SketchUp モデリング 応用操作1	SketchUpのモデリング応用操作1
第24・25回	応用操作2	SketchUpのモデリング応用操作2
第26・27回	6. SketchUp ムービー	SketchUpのムービー・スタイルの基本操作
第28～30回	7. SketchUpプレゼンテーション	SketchUpのムービー・スタイルの応用操作とプレゼンテーション
第31～34回	8. プレゼンテーション 総合演習	プレゼンテーション総合演習(まとめ)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリアに関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査など、校外授業を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 施設の調査・分析	施設を実際に見て調査し、設計するための参考にする。
第7～10回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第11～16回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第17～20回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第21～24回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第25～30回	② 進級制作のための調査	進級制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第31～35回	必要な資料の収集	進級制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第36～45回	参考作品・展覧会の見学	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第46～50回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第51～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	構造力学Ⅰ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につける。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	構造力学の流れ、モデル化、接合条件と支持条件、構造物の分類
第3回	力の基本	力、モーメント、偶力
第4回		合成と分解・計算方法
第5回		分布荷重の合成
第6回		つりあい力算定①
第7回		つりあい力算定②
第8回	静定構造物の反力1	反力算定(単純梁1)
第9回	静定構造物の反力2	反力算定(単純梁2)
第10回	静定構造物の反力3	反力算定(単純梁3)
第11回	静定構造物の反力4	反力算定(単純梁4)
第12回	静定構造物の反力5	反力算定(片持ち梁1)
第13回	静定構造物の反力6	反力算定(片持ち梁2)
第14回	静定構造物の反力7	反力算定(はね出し梁1)
第15回	静定構造物の反力8	反力算定(はね出し梁2)
第16回	静定構造物の反力9	反力算定(ラーメン1)
第17回	静定構造物の反力10	反力算定(ラーメン2)
第18回	静定構造物の反力11	反力算定(トラス)
第19回	静定構造物の応力1	応力概説、算定手順
第20回	静定構造物の応力2	応力算定(片持ち梁1)
第21回	静定構造物の応力3	応力算定(片持ち梁2)
第22回	静定構造物の応力4	応力算定(片持ち梁3)
第23回	静定構造物の応力5	応力算定(単純梁1)
第24回	静定構造物の応力6	応力算定(単純梁2)
第25回	静定構造物の応力7	応力算定(単純梁3)
第26回	静定構造物の応力8	応力算定(ラーメン1)
第27回	静定構造物の応力9	応力算定(ラーメン2)
第28回	静定構造物の応力10	応力算定(ラーメン3)
第29回	静定構造物の応力11	トラス概説、算定手順
第30回	静定構造物の応力12	応力算定(片持ち梁式トラス1)
第31回	静定構造物の応力13	応力算定(片持ち梁式トラス2)
第32回	静定構造物の応力14	応力算定(単純梁式トラス1)
第33回	静定構造物の応力15	応力算定(単純梁式トラス2)
第34回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之(建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	使用する材料の選択は重要である。意匠面だけでなく、安全性や耐久性という建築の性能に関わる。材料に実際に触れる機会を設け、卒業後に設計の現場において適切な材料の選択ができる能力を養う。材料同士の取り扱い、おさまりについても学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、教科書その他スライドや配布プリントを使用。テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容		
第1回	建築材料の概要	①建築材料の歴史 ②建築材料と規格		
第2回	木 材	①日本建築と木材	②木材の種類	③木材の特徴
第3回		④木材の強度	⑤木材の構造	⑥木材と水分
		⑤木取り、規格、等級	⑧エンジニアリングウッド	
第4回	コンクリート	①コンクリートとは	②セメント	③骨材
第5回		④水	⑤混和材料	⑥コンクリートの性質
		⑦調合設計	⑧コンクリートの種類	⑨コンクリートの製品
第6回	鋼 材	①鉄の歴史	②鋼材とは	③製鋼の工程
第7回		④鋼材の特徴	⑤鉄鋼の種類	⑥鋼材の性質
		⑦鋼材の腐食と防食	⑧鋼材の規格	⑨非鉄金属
第8回	焼成品	①焼成品は焼き物	②タイル	③れんが
第9回		④瓦	⑤衛生陶器	
第10回	ガラスと石	①ガラスとは	②ガラスの歴史	③ガラスの特徴
第11回		④ガラスの種類	⑤石材とは	⑥石材の特徴
		⑦石の分類		
第12回	左官材料・ ボード類	①左官とは	②左官の起源と定義	③左官の特徴
第13回		④近年の左官仕事	⑤左官の種類	⑥ボード類
第14回～ 第17回	その他の材料	①プラスチック材料 ④造作材 ⑥建具	②塗料 ⑤屋根材・防水材・断熱材	③接着剤

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅱ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	ものとしての建築が、どのような材料や部分・部品から構成されているのかについて、鉄骨構造を中心に学ぶ。木造・鉄筋コンクリート構造との違いも踏まえ、その特徴や留意点をひも解く。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	鉄骨構造の特徴	構造形式と特徴、設計図書
第3回	材料1	鋼材1(鋼材の形状、柱・梁の種類)
第4回	材料2	鋼材2(鋼材の種類)
第5回	鉄骨構造1	接合方法1(接合方法の種類)
第6回	鉄骨構造2	接合方法2(高力ボルト接合)
第7回	鉄骨構造3	接合方法3(溶接接合／方法、種類、形状)
第8回	鉄骨構造4	接合方法4(溶接接合／工場、現場)
第9回	鉄骨構造5	架構の構成
第10回	鉄骨構造6	基礎・柱脚
第11回	鉄骨構造7	柱・梁(継手・仕口、ブレース)1
第12回	鉄骨構造8	柱・梁(継手・仕口、ブレース)2
第13回	鉄骨構造9	床(デッキプレート、パネル、階段)
第14回	鉄骨構造10	詳細1(耐火被覆、開口部)
第15回	鉄骨構造11	詳細2(外装材)
第16回	鉄骨鉄筋コンクリート構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅱ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔(建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみをもち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	高さ制限	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方
	絶対高さ	用途地域等により、建築物の高さが制限される事を解説
第2回	道路斜線	前面道路の幅員により、建築物の高さが制限される事を解説
第3回	道路斜線の緩和	セツバックによる特例、2以上の道路による特例 道路の反対側の状況による特例、道路と敷地に高低差がある場合の特例
第4回	北側斜線	
第5回	隣地斜線	
第6回	高さ制限まとめ	演習問題による実習を通して、高さ制限について理解
第7回	確認申請等	建築物の建築において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第8回	中間・完了検査	用途変更について、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説 中間検査・完了検査の必要な時期、及びその申請方法について解説
第9回	確認申請等まとめ	演習問題による実習を通して、確認申請等について理解
第10回	避難施設等	廊下の幅員について解説 客席からの出口の戸、及び屋外への出口の戸について解説
第11回		2以上の直通階段が必要な建築物の条件、及び避難階段の種類等について解説 排煙設備について、その設置条件及び構造等について解説
第12回	避難施設等まとめ	非常用照明・非常用進入口・非常用EVIについて、その設置条件及び構造等について解説
第13回	内装制限	内装制限を受ける建築物の条件について解説(令128条の4 表の読み方) 内装制限を受ける建築物の条件について解説(大規模建築物等) 内装制限を受ける建築物の条件について解説(火気使用室) 内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説(室内) 内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説(通路)
第14回	内装制限まとめ	演習問題による実習を通して、内装制限について理解 非常用照明・非常用進入口・非常用EVIについて、その設置条件及び構造等について解説
第15回	構造強度 木造	柱の小径 梁 筋かい、軸組計算
第16回	鉄骨造 鉄筋コンクリート造	地震で倒壊しない塀の構造等を解説 鉄骨造の材料・有効細長比・接合・高力ボルト等を解説 柱・床版・はり・耐力壁の構造等を解説
第17回	構造強度まとめ	演習問題による実習を通して、構造強度について理解

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）					
科目名	インテリアコーディネーション(理論)	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	9単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司（一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築やインテリアの業界で働くインテリアコーディネーターの業務に必要な実践的な知識を得る為の授業である。また、インテリア産業協会が実施している「インテリアコーディネーター資格試験」の試験合格を目標とする授業でもある。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	前期は講義形式を基本とする。また、スライドや動画などの教材利用やショールーム見学等、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。 後期については、インテリアコーディネーター資格2次試験のための、計画とプレゼンテーションの実践課題と小論文の傾向と対策を演習課題を通して学ぶ。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1・2回	ガイダンス	授業概要・目標・スケジュール等			
第3～12回	① 市場調査・建築とデザインの基礎	1. クライアントインタビュー 2. 環境への取り組み 3. インテリア関連の法規 4. インテリアと造形 5. 建築とインテリアの歴史 6. 建築構造の基礎知識 7. リフォーム			
第13～24回	② 住宅の基本とコーディネーション	8. 平面計画 9. 室内環境計画 10. 住宅設備 11. 内装材とその他の建材 12. 造作 13. エクステリア			
第25～32回	③ インテリア商材の基本とコーディネーション	14. 色彩 15. 照明 16. 家具 17. 寝装・寝具 18. ファブリックス 19. ウィンドウトリートメント 20. インテリアアクセサリー			
第33～38回	④ 表現技法と仕事の流れ	21. 表現技法 22. 業務			
第39・40回	演習課題1	授業概要・目標・スケジュール等・プレゼンテーション実践課題			
第41・42回	演習課題2	プレゼンテーション実践課題			
第43・44回	演習課題3	プレゼンテーション実践課題			
第45・46回	演習課題4	プレゼンテーション実践課題			
第47・48回	演習課題5	プレゼンテーション実践課題・論文課題			
第49・50回	演習課題6	プレゼンテーション実践課題・論文課題			
第51・52回	模擬テスト				
第53～68回	進級製作用業	設計サポート			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅱ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	9単位(272時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	中村園香（実務経験を持つ2級建築士であり、建築設計事務所で主に住宅・事務所等の設計業務に従事している経験を活かし授業を行う）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅱ」では、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき商業施設の建築計画を理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は前期は個人で、後期はグループワークによるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1～2回 第69～71回 第3～7回 第72～75回	1. 設計演習Ⅱスケジュール・課題内容説明 2. 調査・分析	①スケジュール及び課題内容説明。 ①「リサーチ」に関する説明。 計画敷地・類似施設現地調査 ②「リサーチレポート」を提出し、発表する。 ③計画敷地周辺模型を作成する。
第8～15回 第76～80回	3. 計画敷地の条件分析・方向性の検討	①コンセプト・キーワードを設定する。 施設ボリューム・動線・ゾーニングの検討をする。 施設構成(配置・平面・断面・各機能)の検討をする。 ②企画書を作成し、発表する。 ③ボリューム模型作成する。
第16～38回 第81～100回	4. エスキース	①配置計画(方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討) 平面計画(ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討) 立面計画(外装・ファサードデザイン・サインデザイン等の検討) 断面計画(階高・階段・EV・吹き抜け・ファサードデザイン・斜線制限等の検討) インテリア計画(内装・ファニチュアプランの検討) 上記のエスキースを行う。 エスキース模型作成する。
第39～59回 第101～127回	5. 図面・模型作成	①設計主旨・建築概要(面積表) 配置図兼屋根伏図・各階平面図 立面図・断面図(展開図含む) 内観パース・外観パース 上記の図面を作成する。 プレゼンテーション模型作成する。
第60～63回 第128～131回	6. 最終提出	①最終成果物(図面・模型一式)提出。
第64～68回 第132～136回	7. クラス発表会	①クラス発表。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ（RC造）	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位（68時間）	開講・履修期	2026年度・2年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス 鉄筋コンクリート造 設計製図課題	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回		配置図・1階平面図講義
第4回～		配置図兼1階平面図作図演習①
第15回		配置図兼1階平面図作図演習②
第16回		基準階平面図講義
第17回～		基準階平面図作図演習①
第25回		基準階平面図作図演習②
第27回		断面図講義
第28回～		断面図作図演習①
第34回		断面図作図演習②

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーションⅡ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位（68時間）	開講・履修期	2026年度：2年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	高畑 真澄（CGパース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	1年次に習得した「illustrator」「photoshop」を更にスキルアップし、より成熟した表現やプレゼンテーションを可能とする応用技術を習得する。また、時間内に仕上げる事、クライアントの要求に答える案件により実践的なスキルを身に着けることを目標とする。。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、「illustrator」「photoshop」の応用技術の習得、表現力の強化を学ぶ。また、プレゼンテーションシート、ポートフォリオなどのレイアウトなど、実践的な手法を習得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 絵のまとめ方	□フォーカルポイント、構図、陰影 ・課題に人物と影を作成、フォーカルポイントとは
第4回	2. Photoshop上級編	□写真の明るさや色合いの調整 ・チャンネル、マスク、調整レイヤーとは ・合成時の色合い調整、なじませる方法、描画モードを使いこなす ・素材の作成：切り欠き、テクスチャー用素材の作成 ・保存形式による変化、適正なデータ量 ・点景の加工、GIFデータの作り方、AI生成
第14回	3. ポートフォリオ企画案	□ポートフォリオについて ・ポートフォリオの表紙、目次とプロフィール、作品一部
第20回	4. 写真加工 レタッチ実習	□リノベーションの依頼と提案 ・クライアントとデザイナーの両方の役割で写真加工
第24回	5. プレゼン (設計課題との連携)	□効果的なプレゼンテーション ・コンセプト、まとめ方、話し方
第26回	6. イラストレーター上級編	□平面図と立面図の着色レタッチ ・インポートと整理、テクスチャー反映、ドロップシャドウの効果、背景、GL以下の表現 □イラストレーター上級編 ・グレースケールの詳細、透明マスク、シンボル、グラフィックスタイル、パターン
第28回	7. レイアウト実習	□レイアウト強化 ・レイアウトの基本パターンとレイアウトグリッド ・用紙サイズによる構成の変化
第30回	8. ロゴデザイン	□ロゴ、サインデザイン(設計演習との連携) ・ロゴデザインとは
第34回	9. 映像編集	□CGムービーの適切な表現を学ぶ ・CGムービーの編集、シーンの適切なカット割り、カメラワーク

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザイン	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度：2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也(インテリアデザイン事務所、不動産会社にて、商業施設の開発、店舗の設計管理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	商業施設及び店舗の実地調査し、「商い」の本質をインテリアデザインの立場より見抜く目を養う。商業施設とは「安心して買い物や飲食ができる空間を創ること」を基に、専門的な知識の学習、設計基本を学び、知恵へと膨らませる。その集大成として、自身で企画した店舗を実地区画にデザイン・設計。模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や専門機関ショールームの見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドや実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。立地調査からコンセプト・デザイン・設計を商いのカタチにまで造り上げることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	インテリアデザインとは 商業施設・店舗の実例をもとに、実践したプレゼンテーションの実演から学ぶ
第2回	2. 課題現地調査	商業施設及び店舗、課題地調査
第3回～	3. 課題現地調査書作成①	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成①
	4. 課題現地調査書作成②	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書(プレゼン資料)を作成②
第8回～	5. 調査書プレゼンテーション	現地調査書、プレゼンテーション(各グループ単位)、グループ別講評
第10回	6. インテリア設計概論	実地店舗においての、コンセプト作り、平面ゾーニング、平面計画等の概論を学ぶ
第11回	7. インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第12回～	8. 平面ゾーニング・計画①	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成①
	9. 平面ゾーニング・計画②	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成②
第18回～	10. 設計図書製作①	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成①
	11. 設計図書製作②	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成②
	12. 設計図書製作③	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成③
第26回～	13. インテリア模型製作①	インテリア、模型製作①
	14. インテリア模型製作②	インテリア、模型製作②
第32回～	15. 最終プレゼンテーション①	プレゼンテーション、個別作品講評会①
	16. 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会②
第34回	17. 最終講評会	各作品全体講評会、インテリア設計のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	パース演習Ⅱ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	前島 和也(パース事務所を主宰する実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築やインテリアの設計プロセスにおける空間のイメージスケッチや完成予想図としてのパース(透視図)の作成技法を習得する。具体的には①1点透視図法②2点透視図法③グリッド法などの基本的な作図手順から、パステル・色鉛筆などによる着色までを学ぶ。また、この授業内容と関連する『インテリアコーディネーター』、『商業施設士』資格取得への足掛かりとなることを目指すものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、参考建物の見学・スケッチなど、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～3回	1、点景の練習	①樹木・行き交う人々・車両などをスケッチする。
第4～7回	2、街のスケッチ	①市街地に出向き、街にある建物を観察し、その中の建物や街並みの一角をスケッチする。
第8～19回	3、2点透視図による作図	①2点透視図で建築外観パースの作図及び着色を行う。
第20～34回	4、設計課題の着色パースを描く	①設計演習Ⅱと連動し、自分がデザインした施設の着色パースを描く。イメージスケッチ、下絵、インキング、着色など一通りのスキルを身につける。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度：2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉村 とも子(CAD利用技術者1級である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	AutoCADの基本操作と応用操作を習得し、図面作成に必要な知識を身に付ける。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、汎用CADでは世界的なシェアを誇るAutoCADの習得を特徴とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	AutoCADのインストールとラアクティベーションについて
第3回	3. AutoCADとは	CADソフトの種類、AutoCADのバージョン
第4回	4. AutoCADの作成機能	「基本的な作成コマンドの操作方法を学びます」
第5回		付属CD-ROMの内容と使い方
第6回		画面構成・環境設定・機動と終了
第7回		ファイルを開く
第8回		コマンドの使い方・オブジェクトの選択
第9回		画面の拡大表示と移動
第10回		直線の作成と削除
第11回		新規図面作成・テンプレートと図面範囲
第12回		座標入力
第13回		直行モードと極トラッキング・オブジェクトスナップ、ポリラインの作成と編集
第14回		ファイルの保存とバックアップ、長方形・ポリゴン、円・円弧・楕円
第15回	5. 練習問題①	直線コマンドを使った図形の問題を作成します
第16回	6. 練習問題②	円や曲線のコマンドを使った図形の問題を作成します
第17回	7. AutoCADの修正機能	「基本的な修正コマンドの操作方法を学びます」
第18回		移動と複写、オフセット・回転、トリム・延長、尺度変更・鏡像
第19回		フィレット・面取り、配列複写
第20回	8. 練習問題③	修正コマンドを活用した問題を作成します
第21回		
第22回	9. AutoCADの応用機能1	「文字や寸法の設定と入力の方法を学びます」
第23回		文字スタイルの役割、文字記入・マルチテキスト・行間隔の設定
第24回		寸法記入スタイルの設定
第25回		長さ寸法・並行寸法・直列寸法・並列寸法・直径寸法・角度寸法・クイック寸法
第26回	10. 練習問題④	図面に文字と寸法を記入する問題を作成します
第27回		
第28回	11. AutoCADの応用機能2	「製図における投影法の種類について学びます」
第29回		投影図の作成
第30回		
第31回	12. AutoCADの応用機能3	「図面作成に重要な、図形を効率よく作成、修正する有効な機能とその活用方法を学びます」
第32回		コマントエイリアスとカスタマイズ、オブジェクトプロパティ管理・オブジェクトスナップ・フック、印刷方法
第33回	13. AutoCADの応用機能4	「画層/レイヤーを使った図面の作成について学びます」
第34回		画層/レイヤー・線の種類についての設定と活用方法、グラデーションの作成
第35回	14. 課題図の作成	問題図面データ(配布)を使用して、作成、修正、印刷まで行う
第36回	15. AutoCADの図面演習	「建築図面を作成する手順を学びます」
第37回		RC造マンションの平面図を作成
第38回		各スタイルの設定とテンプレートの活用
第39回		マルチラインの設定と作成
第40回		基点設定・2点間中点・分解・グリッパ編集
第41回		ブロックの作成と挿入・属性の作成と編集
第42回		尺度の考え方と印刷・モデル空間とレイアウト空間

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	インストール	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度：2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次(建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。)石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	学内だけではなく実際に外に出て実物のものをつくりあげることが目的とする。外部で開催される学校イベントに向けて、スケジュール管理、コストコントロール、人とのかわりあい学ぶ。具体的な作り方・材料の種類・工具・留付け方法などを実体験する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とし、ホームセンター等の材料・工具が揃う場所への調査や校外授業なども適宜取り入れる。作品はクラス全員、グループによる創作である。デザインコンセプトを現実のカタチにまで造り上げることや、期限内に作品を完成させることを、理解し実感することを最優先とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～第4回	1. ガイダンス	インストールの概要説明/参加イベントの詳細説明 イベント空間デザイン・ワークショップ内容についての検討開始
第5回～第14回	2. ワークショップ計画	①グループに分かれての「ワークショップ案」検討 ②事例見学 ③ディテール検討 ■ワークショップ案選定
第15回～第37回	3. 空間デザイン計画	①ワークショップ内容をもとに、グループに分かれての「空間デザイン案」検討 ②ホームセンターにて材料の検討 ③ディテール検討 ■空間デザイン案選定
第38回～第40回	4. 担当割り振りと検証	①リーダー、チーフ等担当割り振り ②工程作成 ③実施図作図、使用材料算出発注、工具手配
第38回～第40回	5. 製作(空間・ワークショップ)	製作作業 仮組・解体・手順確認、搬出入の手配
第41回～	6. イベント&ワークショップ	■11月イベント展示・搬出入・ワークショップ
第47回～	7. 総括	経費精算、片付
第49回～	8. 講義・実習	作業に係る機械の安全、構造及び機能に関する知識
第59回～	9. 制作実習	レザークラフト演習・他
第68回～	10. まとめ	制作物の記録・ポートフォリオ化

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次(建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリアに関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査など、校外授業を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 施設の調査・分析	施設を実際に見て調査し、設計するための参考にする。
第7～10回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第11～16回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第17～20回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第21～24回	調査結果の発表	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第25～30回	② 進級制作のための調査	進級制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第31～35回	必要な資料の収集	進級制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第36～45回	参考作品・展覧会の見学	進級制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第46～50回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第51～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	ビジネス実務	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	一般教養
教員紹介	上條 浩司(就職指導業務に従事した実務者が、経験を生かした授業を行う。)				
授業の到達目標	専門学校卒業後の進路を考え、就職活動に必要な基礎知識や履歴書の作成方法等を学ぶ。基本的な挨拶やビジネスマナー等の習得を目標とする。				
授業の概要及び特徴	オンラインでの講義形式を基本とする。ワークや提出書類でキャリアについて自分の考えをまとめていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 働く目的と働き方	働く目的や働き方、仕事の種類を解説
第2回	2. コミュニケーション	コミュニケーションの基本である挨拶の重要性について解説
第3回	3. 就職ガイダンス	活動スケジュール、インターンシップ、就活準備の解説
第4回	4. 社会に対する関心	社会に対する関心を持つ(毎日の時事への関心を習慣化する)
第5回	5. 自己分析①	自分を振り返り、理解する
第6回	6. 自己分析②	①振り返りシート作成 ②自己分析シート作成
第7回	7. 履歴書①	①履歴書の目的、作成方法のポイントを解説
第8回	8. 履歴書②	②履歴書用紙に記入練習
第9回	9. 面接対策①	①説明会、会社訪問(WEB・対面)のポイントを解説
第10回	10. 面接対策②	②面接(集団・個人・WEB・対面のポイントを解説
第11回	11. 入社試験対策	筆記試験・適性検査の特徴と対策を解説
第12回	12. 電話	電話対応のポイントを解説
第13回	13. メール	ビジネスメールのポイントを解説
第14回	14. 手紙	送付状・封筒宛名の書き方と送付方法のポイントを解説
第15回	15. ビジネスマナー①	①報告・連絡・相談の重要性の理解と解説
第16回	16. ビジネスマナー②	②敬語・言葉使いと訪問時マナーのポイントを解説
第17回	17. ビジネスマナー③	ビジネスマナーの解説・まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・3年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	公共建築の各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例の平面図を用いて、計画的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、スライド・動画を示して説明する。最後に、演習問題を実施して理解度を確認する。また、具体的な建築事例について、平面図を分析するとともに、実際に視察することで、理解を深める。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス 教育施設 文化施設	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回		保育所、小学校
第3回		・用語、寸法・面積、平面計画
第4回		・建築事例の平面図分析
第5回		・建築事例の施設見学
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		図書館、美術館、劇場
第11回		・用語、寸法・面積、平面計画
第12回		・建築事例の平面図分析
第13回		・建築事例の施設見学
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	環境工学	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・3年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	快適な空間を理解し、自らそれを作り出すために、建築が人間に与える環境(熱・空気・光・音など)について工学的な基礎知識を学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回	太陽と地球1	太陽位置、地球の公転・自転、日照と日影
第3回	太陽と地球2	太陽からの放射と地球放射
第4回	太陽と地球3	地球の大気と気象
第5回	波の性質	波の性質、波としての音、波としての光
第6回	熱の性質	熱とは、熱の伝わり方
第7回	熱1	人体の熱収支、温熱快適要素、温熱快適指標
第8回	熱2	室内環境における熱収支、断熱、蓄熱
第9回	熱3	湿気、結露、対策
第10回	空気環境1	室内空気と汚染源
第11回	空気環境2	換気(目的、必要換気量、原理、種類)①
第12回	空気環境3	換気(目的、必要換気量、原理、種類)②
第13回	音1	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)①
第14回	音2	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)②
第15回	音3	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)①
第16回	音4	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)②
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・3年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	田中 佑介 2級建築士、設備設計事務所のチーフエンジニアとして、公共施設や商業施設等の設備・照明計画監理の実務経験を活かして授業を行う。				
授業の到達目標	建築設備の理解と職業の解説(建築設備はむずかしくないことを伝える) 主として戸建て住宅や集合住宅等に関する環境・設備の理解 その具体的な内容及び到達目標は別途資料であるルーブリック表を参照のこと				
授業の概要及び特徴	講義方式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。 またパワーポイントWEB等の教材を利用し、建築設備に関する実務の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	事例紹介 設備を学ぼう 建築設備エンジニアの道 建築設備士年収
第2回	空調・衛生・電気	校内・家の中にある設備を調査する
第3回	衛生設備	給水と排水 インフラについて 計画敷地の事前調査について
第4回	給水設備	給水方式 用語の解説
第5回	排水設備	排水設備 用語の解説
第6回	空調設備	室内環境 冷暖房 負荷計算
第7回	換気設備	冷暖房から空気調和へ 室内空気環境の基準 必要換気量の計算
第8回	空調設備のしくみ	ヒートポンプについて 冷熱源・温熱源装置等
第9回	電気設備(1)	電気はどこからやってくる？
第10回	電気設備(2)	電気を送るしくみ 強電設備
第11回	電気設備(3)	情報を通信するしくみ 弱電設備
第12回	電気設備(4)	電灯設備 配線について
第13回	防災設備	災害 火災 停電 自然災害
第14回	中央監視設備	中央監視と自動制御設備のはたらき
第15回	これからの建物づくり	ZEH ZEB HEMS BCP 環境性能とは
第16回	まとめ	
第17回	試験	

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・3年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之（建築設計事務所で、主に戸建て住宅、集合住宅、商業・事務所ビル等の設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方
	契約・仕様書	
第2回	施工計画	工事計画 施工計画 工程計画
	施工管理	
第3回	工事準備	現場 安全 材料 品質管理
第4回	各部工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 栈橋 架設通路 安全施設
	仮設工事	
第5回	土工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
	地業工事	
第6回	基礎工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
	鉄筋工事	
第7回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
	コンクリート工事	
第8回	鉄骨工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
	組積工事	
第9回	木工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
	防水工事	
第10回	左官工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
	タイル工事	
第11回	石工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
	塗装工事	
第12回	建具工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
	ガラス工事	
第13回	内装工事	給排水衛生 建築と設備の関連
	断熱工事	
第14回	設備工事	屋根工事 金属工事
	各種工事	
第15回	施工用語	揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
	施工機械器具	
第16回	その他	工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率
	積算	
第17回	測量	縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	構造力学Ⅱ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・3年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	重力や地震・台風などから人間が暮らす空間を守るためには、建物の力学的な安定が必要となる。建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているか(応力)の理解を踏まえて、断面に関わる事項(応力度・断面に関する数量・座屈)について学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とし、演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	部材に生じる力1	部材に生じる力(応力復習)・応力度概説
第3回	部材に生じる力2	応力度算定(反力から応力度まで)
第4回	部材の性質と応力度1	断面に関する数量(断面一次モーメント概説・解法)
第5回	部材の性質と応力度2	断面に関する数量(断面一次モーメント演習)
第6回	部材の性質と応力度3	断面に関する数量(断面二次モーメント概説、解法)
第7回	部材の性質と応力度4	断面に関する数量(断面二次モーメント演習1)
第8回	部材の性質と応力度5	断面に関する数量(断面二次モーメント演習2)
第9回	長柱の座屈1	座屈 概説、解法
第10回	長柱の座屈2	座屈演習
第11回	部材の性質と応力度6	断面に関する数量(断面係数概説・解法)
第12回	部材の性質と応力度7	断面に関する数量(断面係数演習1)
第13回	部材の性質と応力度8	断面に関する数量(断面係数演習2)
第14回	部材の性質と応力度9	応力度算定演習1
第15回	部材の性質と応力度10	応力度算定演習2
第16回	不静定構造物	たわみ、たわみ角
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅲ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	5単位（170時間）	開講・履修期	2026年度・3年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 石橋弘次（建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネーション業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅲ」では、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき複合施設の建築計画を理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 設計演習Ⅲスケジュール・課題内容説明	①スケジュール及び課題内容説明。
第2回～ 第3回	2. 調査・分析	①「リサーチ」に関する説明。 ②「リサーチ」について発表する。
第4回～ 第16回	3. 計画敷地の条件分析・方向性の検討	①コンセプト・キーワードを設定する。 施設ボリューム・動線・ゾーニングの検討をする。 施設構成（配置・平面・断面・各機能）の検討をする。 ②企画書を作成し、発表する。 ③ボリューム模型作成する。
第17回～ 第44回	4. エスキース	①配置計画（方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討） 平面計画（ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討） 立面計画（外装・ファサードデザイン・サインデザイン等の検討） 断面計画（階高・階段・EV・吹き抜け・ファサードデザイン・斜線制限等の検討） インテリア計画（内装・ファニチュアプランの検討） 上記のエスキースを行う。
第45回～ 第80回	5. 図面・模型作成	①設計主旨・建築概要 配置図・各階平面図 立面図・断面図・展開図 内観パース・外観パース 上記の図面を作成する。 プレゼンテーション模型作成する。
第81回～	6. 最終提出	①最終成果物（図面・模型一式）提出。
第85回	7. クラス発表会	①クラス発表。

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアプロダクトデザイン	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・3年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	プロダクトデザイン(PD)は生活環境のあらゆる「もの」に関わるデザインを対象としています。今日のPDは、近年ますます重視されるユニバーサルデザインの設計思想に基づき、防災と災害時の使用を視野に入れた、安全な生活環境の創造が求められています。メイン演習においてはプロダクト系3D-CAD(Fusion360)の演習を通し、プロセスのなかで発想を磨き上げることを学びます。そして同時に、現代PDの工業生産・製造の基礎知識と歴史、商品企画・設計のポイントを確認します。また、3D-CGⅢと連携した付帯演習としてデジタルファブリケーション講習を実施し、レーザー加工機や3Dプリンターの操作技術を習得します。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とし、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人による創作である。期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1回～ 第7回～	講義 メイン演習 講義	プロダクトデザイン講義1 概論 家具の基礎概論／家具の人間工学 ●「家具デザイン」(仮)演習ー1 ～ラック 家具の構成と構造- 脚物・箱物、継ぎ手と仕口、座の構造、塗装 ①テーマと造形 ②モックアップ制作 ③作図 ④まとめ ⑤プレゼンテーション			
第18回～	付帯演習	■「3D-CAD Fusion360を使ったアサイン・モデリング演習」__生活雑貨から日用品まで ①基本 ②応用 ③アッセンブル図			
第30回～	講義	デザイン史1:「プロダクトデザインの近現代史／近代現代の家具」			
第36回～	講義	デザイン史2:「ヨーロッパの様式家具史—古代から近世まで」			
第38回～ 第40回～	メイン演習 講義	●「家具デザイン」(仮)演習ー2 ～椅子 ①テーマと造形 ②モックアップ制作 ③作図 ④まとめ ⑤プレゼンテーション 家具概論、公共空間における人の動きと過ごし方			
第45回～ ～第48回	講義 テスト	プロダクトデザイン講義 2, 3 ○前期テスト			
第50回～ 第52回～	付帯演習 付帯演習	■ビジュアライゼーション ■レーザー加工機操作演習/3Dプリンター操作演習			
第55回～ 第60回～	メイン演習 講義	●「照明器具・照明オブジェ」(仮)演習 ①テーマと造形 ②モックアップ制作 ③作図 ④まとめ ⑤プレゼンテーション 照明概論			
第64回～ テスト ～第68回	講義 テスト 付帯演習	素材・成型法概論1, 2 ○後期テスト ■CNC加工の基礎			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	ライティングプラン	開講学科	建築インテリア工学	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・3年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	高橋 翔（建築設備設計事務所にて庁舎や商業施設、病院等の設備・照明設計監理の実務に現在従事している経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「ライティングプラン」では、計画からプレゼンテーションまでの手法を課題作成により学習し、実務レベルの知識を身に付けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全て個人によるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～第4回	1. スケジュール・課題内容説明	①スケジュール及び課題内容説明。 定められた平面プランに各々定めた業種業態の飲食店を設定し最終的に照明計画を行う。
第5回～第14回	2. 調査・分析	①各個人別に業種・インテリアの方向性等計画の方向性を決定する。 ②実店舗などの「リサーチ」を行う。 ③イメージ素材の収集・まとめ
第15回～第16回	3. 照明基礎知識	具体的な照明計画に入る段階で基礎知識・用語を習得する。
第17回～第28回	4. 詳細計画	①各自で詳細計画 平面計画（ゾーニング・動線・客層・席数の検討） 照明計画（配灯図・器具表の作成）
第29回～第34回	5. プレゼン・講評 最終提出	①設計趣旨・計画の説明をクラス内で行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅲ	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・3年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	木元 洋佑（建築設計事務所で商業施設・学校施設・伝統的建築物活用のためのリノベーションの設計監理業務に従事している経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	Archi CAD技能の取得（平面図、立面図、断面図、3Dモデルの作成、レンダリング）。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、建設業界におけるBIMの活用が急激に進んでいる中で、今後必要とされる技術を取得することを目的とする。BIMソフトを利用した、プレゼンテーションや、他ソフトとの連携についての技術も取得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	アプリケーションのインストール。無償教育版の申し込みを行う。
第3回	3. BIMの基本	簡易建物(オフィスビル)の作成
第4回～ 第10回	アーキキャドに慣れる	簡易的な建物をモデリングすることによりアーキキャドの基本的な操作を学ぶ。
第11回	4. 操作の基本1	基本的なアーキキャドの操作方法を実戦。
第12回	環境の設定	操作画面の環境設定を行う。
第13回～ 第18回	5. 操作の基本2 モデリング	ファンズワース邸を参考にモデリングを行う。
第19回～ 第22回	6. 操作の基本3 レンダリング 図面 レイアウト	モデリングしたファンズワース邸を利用して、レンダリング、図面化、レイアウトを行う。 レイアウトした図面を出力する。
第23回～ 第26回	7. CADの応用 設計課題の敷地を作る	プロジェクトを始める前の準備を学ぶ。 計画敷地を与えられたのちにスタディをするまでの準備段階をアーキキャドで行うことにより卒業制作でアーキキャドを活用できるよう学習する。
第27回～ 第32回	8. CADの応用2 ゾーンツール	ゾーンツールを利用して保育所の設計をする。 ゾーンツールを使って設計課題の敷地でスタディを行う。
第33回～ 第41回	9. BIMデータを利用した プレゼンテーション への活用	BIMデータを利用した、効率的なプレゼンテーション方法を学ぶ。
第42回～ 第56回	9. 木造図面の作成 実施図面への変更	木造軸組の設計時のBIMの使い方を学ぶ。 構造の入力＋壁の入力 基本図面から実施図面への変換
第57回 第58回	10. BIMXの活用 プレゼンテーション	BIMXへの変換、活用方法 これまでに作成したCAD図面、3Dモデル、デジタルパースなどを素材に、一つのプレゼンテーションソフトにまとめ、実際に発表する。
第59回～ 第68回	11. 0から課題をまとめる	1級建築士試験を題材にアーキキャドで提出図面をまとめる。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	エクステリアデザイン	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・3年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇(建築設計事務所で、教会設計、土気ヒルズと沢山の街並み計画、実施設計、その他数々の住宅を手掛け新築からリフォームまでインテリア、エクステリア、ライティングまでトータルにデザイン設計を行う経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	「エクステリアデザイン」では、住宅の安全性・機能性・快適性・利便性・美観性を高める事の出来る環境を作り出し、住宅周りの外構に止まらず特徴のある街並みを形成し、地域のアメニティー源となる事を学ぶことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドや資料などの教材を利用した講義形式の授業も行う。作業は個人またはグループによるものである。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回	2. エクステリアの基礎	エクステリアの基礎知識①
第3回		エクステリアの基礎知識②
第4回～		実例調査・見学①
第10回		実例調査・見学②
第11回		住宅設計条件講義
第12回～		住宅設計条件による庭の設計作図演習①
第20回		住宅設計条件による庭の設計作図演習②
第21回		卒業設計講義
第22回～		卒業設計作図演習①
第32回		卒業設計作図演習②
第34回	3. エクステリアのテクニック	卒業設計プレゼン発表①

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	3D・CG II	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・3年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	プロダクトデザイン分野での主流3DソフトFusion360の操作について学習する。Fusion360を使った製図表現、レンダリング及びHDR背景を学習し総合的表現能力を習得する。また、3Dプリント・CNC加工機用データの作成を通しデジタルファブリケーションの技能を修得する。同時進行の家具・照明デザイン(インテリアプロダクトデザイン)とリンクして3D-CGでの表現方法の応用を計る。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、3D・CGソフトを使いこなすことによりプレゼンテーション時の表現能力を身に着ける。また、3Dプリント・CNC加工機操作を学びデジタルファブリケーション表現方法の充実を計る。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容	
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明	
第2回	2. 概論	Fusion360とは	
第3回～	3. Fusion360 基本操作	ソフトのインストール	
第4回～		Fusion360基礎(Fusion360の画面構成／基本操作)	
第6回～		Fusion360のインストール	
第8回～		Fusion360の基本環境設定と操作の基本	
第10回～		Fusion360の基本操作の練習1	
第12回～		Fusion360の基本操作の練習2	
第14回～		Fusion360の基本操作の練習3	
第16回～		4. Fusion360 モデリング演習(基礎)	演習1
第18回～			演習2
			演習3
	演習4		
	演習5		
	演習6		
第21回～	5. モデリング演習(応用)	演習7	
第23回～	6. 椅子のモデリング	演習8	
		演習9	
第27回～	7. 照明のモデリング	演習10	
第30回～	8. デジタルファブリケーション	3Dプリントのためのデータ作成と機器操作	
第34回		CNC加工機のためのデータ作成と機器操作	

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	課題研究	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	4単位(148時間)	開講・履修期	2026年度:3年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査・分析などを行う。建築インテリアに関する自分の見聞を広げることで、優れた作品を生み出すための知識と感性を磨き、課題制作に生かすことを目的とする。				
授業の概要及び特徴	建築インテリアに関する展覧会や作品見学、および施設などの現地調査など、校外授業を主とする。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2～6回	① 施設の調査・分析	施設を実際に見て調査し、設計するための参考にする。
第7～10回	対象作品のリストアップ	専門雑誌や作品集等の資料から、各自が興味を持った作品をリストアップし、調査する対象作品を決定する。
第11～16回	対象作品の現地調査	対象作品を実際に現地で調査し、必要に応じて、写真撮影やスケッチをして記録する。
第17～20回	調査結果のまとめ	現地調査した結果をレポートにまとめる。
第21～24回	調査結果の発表	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第25～30回	② 卒業制作のための調査	卒業制作のテーマ設定の裏付けとなる調査を行う。
第31～35回	必要な資料の収集	卒業制作を行うために必要な資料の収集を行う。
第36～45回	参考作品・展覧会の見学	卒業制作の参考になる作品の現地見学や作品の展覧会の見学を行う。
第46～55回	調査結果のまとめ	調査した結果を企画資料としてレポートにまとめる。
第56～74回	制作作業	企画資料を踏まえた制作作業を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	建築インテリア工学科	修業年限	昼間部3年制
取得単位数	7単位(212時間)	開講・履修期	2026年度・3年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	栗山雅之（実務経験を持つ一級建築士であり、インテリアデザイン事務所、設計施工会社企画設計部で、主にホテル・商業施設・店舗等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 石井準司（一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。） 石橋弘次（建築設計事務所にて、戸建て住宅の設計監理業務、マンションリノベーションの設計、インテリアコーディネート業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	「卒業制作」では、集大成として各学生が自由なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき計画を進める。テーマに関する情報収集・処理能力や具体化への企画構想力、プログラムにたいして的確な判断力、プランニング・デザインにおける豊かな想像力、造形力、ビジュアライゼーション・プレゼンテーションにおける表現力等をやしなうことを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、テーマ・コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、在学中に学んだ多くの他の授業の集大成である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. テーマ設定	①テーマを設定する。
第2回～ 第3回	2. 調査・分析	①テーマに関する資料収集 計画敷地・上位計画・法的条件調査 類似施設現地調査 テーマ変更・調整・再調査 ②「テーマレポート」について発表する。 ③計画敷地模型を作成する。
第5回～ 第24回	3. 計画敷地の条件分析・方向性の検討	①コンセプト・キーワードを設定する。 施設ボリューム・動線・ゾーニングの検討をする。 施設構成(配置・平面・断面・各機能)の検討をする。 ②企画書を作成し、発表する。 ③ボリューム模型作成する。
第25回～ 第53回	4. エスキース	①配置計画(方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討) 平面計画(ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討) 立面計画(外装・ファサードデザイン・サインデザイン等の検討) 断面計画(階高・階段・EV・吹き抜け・ファサードデザイン・斜線制限等の検討) インテリア計画(内装・ファニチュアプランの検討) 以上のエスキースを行う。 エスキース模型作成する。
第54回～ 第101回	5. 図面・模型作成	①設計主旨・建築概要 配置図・各階平面図 立面図・断面図 内観パース・外観パース 以上の図面を作成する。 プレゼンテーション模型作成する。
第102回～	6. 最終提出	①最終成果物(図面・模型一式)提出。
第106回	7. クラス発表会	①クラス発表。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週